

映画



1月17日(木)に上映会、鑑賞券販売中

合志町(現 合志市)出身の中山節夫監督の「新・あつい壁」はハンセン病とされた農夫が殺人犯として裁かれた 55 年前の事件を若い雑誌記者が真相を求めたどって行く物語です。熊本市の Denkikan で10月5日までの105日間にわたり超ロングラン上映され、同時に合志市、八代市、宇土市、大津町、山都町など熊本県を中心として全国各地で上映され、大反響でした。新・あつい壁は 1996 年のらい予防法廃止から 10 周年を記念するとともに、2001 年熊本地裁判決とその後の政府の控訴断念による判決確定を伴うハンセン病国賠訴訟勝訴 5 周年を記念する作品です。文部科学省特別選定作品、熊本県推奨、アジアフォーカス・福岡国際映画祭特別招待作品に選ばれました。

映画制作には菊池恵楓園入所者自治会、ハンセン病市民学会など多くの団体個人が支援協力されました。教職員組合も 2006 年度の映画制作の計画段階から製作協力券の販売に協力いたしました。今回は、上映会を通して多くの方々に映画を楽しんでいただき、ハンセン病に関心をもっていただく契機となれと思います。俳優の方々の演技も味わい深く、心に響く映画です。奥の深い社会問題をわかりやすく飽きさせることなく見せますが、背景に潜む事柄はやはり重く巨大な問題が提起されています。

何が変わったのか、変わらないのか

監督 中山 節夫

この映画は、私が作ったというより、本当に入所者の皆さん、それからこの映画をご支援していただいた方々の熱意が結集したと思っております。

私がハンセン病患者を親に持つ子どもたちが、登校拒否に遭った事件を題材に「あつい壁」を撮ったのが 1969 年。40 年経た今も、このタイトルが違和感無く使えてしまう現実にまだあります。確かに今日では療養所の入所者と、社会との交流も活発になり、啓発活動も広がり、療養所の内と外をめぐる状況は随分変化してきました。また、らい予防法が廃止され強制隔離政策がまちがいであったことを国が認め謝罪もしました。しかし私たち一人ひとりの差別意識が払拭されていないことも、いろいろな事象・事件がものごとになっています。

劇映画「新・あつい壁」は、ハンセン病患者である事を理由に法の前の平等を踏みにじられた 50 年以上も前の事件を通してそれを許した当時の社会の意識が今日どのように変わったのか、そして何が変わらないのかを描きました。

今も耳に残るあの言葉 映画「新・あつい壁」製作・上映実行委員会委員長 坂本 克明

1961(昭和 36)年 6 月当時の恵楓園に隣接してあった医療刑務所に教戒師として出向き、そこではじめて事件の男性 (F さん) と会いました。彼は、「わたしはやっていません」と無実を訴えていたが、翌年 9 月福岡刑務所に移送され、その日のうちに死刑が執行されました。教戒師として、最後の言葉を聞けなかったどころか、執行にも立ち会えず、愕然となりました。1948(昭和 59)年法務省関連の仕事に就いていた方から、告白を受けました。「F さんの最初の裁判の時、私は書記官をしていました。裁判長が証拠のタオルを提出するように言われたとき、私は割箸でつかんでもっていきました。当時裁判に関係した誰もが、差別と偏見をもって裁判にあたり、ボロ雑巾のように彼を扱ったのです」と。今もこの言葉が、耳を離れません。

死刑執行から 40 年以上たっても、ハンセン病への社会の偏見や差別は根強く残っていま

す。法制度のようなカタチでは解消されてきたが、一人ひとりの差別心はいつこうになくなりません。元患者への宿泊拒否とその後殺到した中傷の手紙が典型です。国民の意識を変える必要がまだまだあります。

映像で訴える映画は大きな可能性があると思います、全国の多くの方々の御協力でご一緒できました。私はこの映画を見ていただいて、差別というものの真実を知っていただき、不条理を世に訴えていただきたいと思います。願っております。

いのち

こだま

餅 雄二 (ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会会長)

何だろう、これは――

胸底に無性に沸き立ち、まるで咳き込むように突き上げてくるもの、
容赦なく踏みにじられた心のその痛みの激しさ

引きちぎられたふるさとへの思いを

一かけら一かけら拾いなおさずにいられない悲しさ

だがおれは決して忘れない

ハンセン病患者を狩り立て

人権をむしりとりこの檻に閉じ込めた奴

いまもしかと見覚えのある

白い手袋をした奴の手

奴に繋がるいくつもの手は

この日本の大地に

ニョキッと根つきふてぶてしく生えている

ぜったいに赦しはしない

きつときつと刈りとってやる

おれのいのちの焰

死んでも死にきれない怒り



日時:平成 20 年 1 月 17 日(木)

午後 3 時 40 分開場、上映(111 分) ①午後 4 時 10 分、②午後 6 時 40 分、

場所:熊本大学 工学部百周年記念館

鑑賞券:組合員 800 円(当日 1000 円)、一般 1300 円(当日 1500 円)、学生 800 円(当日 1000 円)

鑑賞券取り扱い:教職員組合本部事務所(電話 342-3529)、医学部支部(電話 373-5858)、

教職員組合各支部執行委員、恵和会売店(病棟、外来、楷樹会館)、生協プレイガイド。
恵和会と生協では教職員組合員価格はありませんが、購入後組合本部より 500 円補助あり。
製作協力券でも入場できます。

熊本大学教職員組合

No. 2

2007. 12. 17

教育文化部会ニュース

TEL 342-3529 FAX 346-1247

mail: ku-kyoso@union.ac.jp